

70th Anniversary

since 1952

70周年記念誌

70th Anniversary



社会福祉法人育秀会
〒176-0002 東京都練馬区桜台2-2-8
TEL.03-3557-7637 FAX.03-3557-7638

社会福祉法人 育秀会
www.ikushukai.or.jp

基本精神

for others

人間は世の為、人の為に尽くしてこそ生きる価値がある。



理念

安心・安全で快適な暮らし作り

育秀会は、関連の医療法人財団秀行会と協力して
保健、医療、福祉にわたる総合的なサービスを提供し、
安心して生活できる地域社会作りに貢献して参ります。

Contents

cover information
作品／シロツメクサ“クローバー”(マメ科)
作者／森本三枝子

| | |
|-------------------------------|-------|
| 理事長挨拶 | 3 |
| 祝辞 | 4-7 |
| 創設者の紹介／社会福祉法人育秀会70年のあゆみ | 8-13 |
| CROSS TALK | 14-16 |
| 地域と共に | 17 |
| 特別養護老人ホーム育秀苑 | 18-19 |
| 特別養護老人ホーム第2育秀苑 | 20-21 |
| 特別養護老人ホーム第3育秀苑 | 22-23 |
| 編集後記 | 24 |

ご挨拶

社会福祉法人育秀会は2022年12月に創立70周年を迎えました。これも地域の皆さまをはじめ関係各位のご理解ご協力と、職員の献身的な努力によるものと心より感謝申し上げます。

社会福祉法人育秀会は戦後の混乱をきわめた社会状況の中、1952年に創設者阿部秀世が私財を投じて乳児院を創設し認可を受けました。1987年には練馬区で最初の特別養護老人ホームを開設し、時代により変化する地域のニーズに応え、現在は練馬区桜台・羽沢・土支田で高齢者福祉事業を主に運営しています。困っている人のお役に立ちたいという奉仕の精神は現在も育秀会で働いている私たち全職員に引き継がれています。

この70年間で生活様式や社会制度も大きく変わり、また、私たちを取り巻く自然環境も変化しています。「これまでの70年間 そして未来へ」新しい時代にふさわしく、知恵を尽くして科学的・先進的な取り組みを行い、希望ある社会を未来の世代に引き継いでまいります。

どうぞ、これからもご指導ご支援を、宜しくお願い申し上げます。



社会福祉法人育秀会
理事長 中村 喜江



社会福祉法人育秀会 創立70周年に寄せて

社会福祉法人育秀会が創立70周年を迎えられましたこと、心よりお慶び申し上げます。貴会は、戦後直後の混乱期に親を亡くした子等を支援する乳児院として、私の地元であります練馬区桜台の地で発足され、まさに地域に根ざし、地域と共に歩みを進めてされました。創設者である阿部秀世先生の「人間は世のため、人のために尽くしてこそ生きる価値がある」という精神は脈々と引き継がれ、現在も福祉・保健・医療の総合的な取り組みにより社会福祉環境の向上に貢献いただいておりますことに、私も練馬区民として敬意を表します。

昨今では新型コロナウイルス感染症の流行により、特に福祉の現場では様々な対応を余儀なくされる中、率先したICT機器導入などで安心・安全な介護福祉現場の実現に取り組まれており、こうした感染拡大防止へのご尽力にも改めて感謝申し上げます。

この節目を機に、社会福祉法人育秀会の益々のご発展と更なるご活躍を心より祈念申し上げ、お祝いのご挨拶とさせていただきます。



東京都知事
小池 百合子

育秀会創立70周年に寄せて

社会福祉法人育秀会が創立70周年を迎えられましたことを、心からお祝い申し上げます。

育秀会は、終戦後の混乱のなか、育児に困っているお母さんと赤ちゃんのため、昭和27年に乳児院を設立されたのが始まりと伺っています。昭和62年には、練馬区初となる特別養護老人ホーム育秀苑を開設されました。今では、三か所の特別養護老人ホームのほか、居宅介護事業所、地域包括支援センターを運営され、地域包括ケアシステムの構築に多大な貢献を頂いています。中村理事長をはじめ、歴代の役員の皆様、職員の皆様のご尽力に心から敬意を表し、感謝を申し上げます。

コロナ禍においても、現場の最前線で奮闘して頂いています。「安心・安全で快適な暮らし作り」という理念のもと、引き続き、練馬区の高齢者福祉の充実にお力添えを賜りますよう、お願い申し上げます。

結びに、この節目の年を契機に、社会福祉法人育秀会の益々の発展と、中村理事長をはじめ、職員の皆様の今後一層の活躍を祈念申し上げ、お祝いの言葉といたします。



練馬区長
前川 煽男

社会福祉法人育秀会創立70周年を記念して

十文字学園女子大学
人間生活学部 教授 今井 伸

この度は創立70周年を迎えて、まことにおめでとうございます。ひとくちに70年と申しますが、戦争前後の混乱期における児童福祉施設の設立から、高齢者福祉事業への転換等、社会情勢の変化に対して、いくつもの困難があり、そのたびに人知れぬご苦労があつたことと拝察いたします。私も、第3育秀苑の開設時には、区の担当課長として中村理事長とともに、地域住民の方々へのお願いやお詫びをさせていただいたことなど、懐かしく思い出します。今では、大学の卒業生たちが職員としてお世話になっています。練馬区で最も歴史のある社会福祉法人として、これからも伝統と人材を生かし、さらなる発展をとげられることを祈念いたします。



社会福祉法人育秀会創立70周年おめでとうございます

東京都健康長寿医療センター
名誉理事長 井藤 英喜

育秀会創立70周年おめでとうございます。
地域の産婦人科医として活躍されていた阿部秀世先生が、親を亡くした乳児や子を育てられない事情を抱えた母親のために乳児院を創設されたのが社会福祉法人の始まりです。
現在、育秀会は地域の高齢者を支える3つの特別養護老人ホーム、地域包括支援センター、街かどケアカフェを運営されています。初代理事長阿部秀世先生、2代目中村喜江両先生の「世のため、人のため」、「for others」という利他の精神が脈々と流れている育秀会が、地域にとってなくてはならない組織であり続けることを願っています。



育秀会創立70周年にあたり



武蔵野市医師会 副会長
はせがわ内科 院長 長谷川ひとみ

私が中村喜江先生に出会ったのは医学部入学時のことです。当時私たちの大学医学部は原則全寮制で、文字通り寝食を共にしました。当時ハタチそこそこの多感な乙女は、厳しい勉学の他、クラブ活動(二人とも運動部)、その他もろもろ(?)に励む学生時代を経て、卒業後はそれぞれの道に進みました。実に20数年後、私がクリニックを開業したことをきっかけに、再び出会いがあり、現在は育秀会の評議員の末席を務めさせていただいている。初めて評議員会に出席した際には中村理事長の崇高な理想と理念を拝聴し、感銘したとともに隔世の感がありました。

今後も、育秀会、秀行会の優れた理念がスタッフによって実践されることを信じております。

育秀会創立70周年を迎える



医療法人財団秀行会
理事長 中村 哲郎

育秀会設立70周年、おめでとうございます。
設立者の阿部秀世医師は、産婦人科医として地域医療に貢献する傍ら、二つの法人を産みだしました。すなわち一つは医療法人財団秀行会であり、少し遅れて社会福祉法人育秀会を創立しました。したがって、秀行会と育秀会は同じ親を持つ兄弟法人と言うことが出来ます。
これからも、設立者の理念を守りつつ、時代に即して変革しながら、手を携えお互い協力して地域の医療および社会福祉に邁進してまいる所存です。何卒よろしくお願い申し上げます。

創設者の紹介

創設者 阿部 秀世

1909年(明治42)～2008年(平成20) 99歳没

阿部秀世は、明治42年大分県に待望の一人娘として生まれ、生家は大分の地主である。祖父は私塾培根舎を開いた教育者、母は医療への関心が非常に高く、後に秀世を医者の道へと導いた。昭和7年東京女子医学専門学校(現東京女子医科大学)を卒業後、産婦人科医としての勤務を経て、昭和10年阿部医院(現阿部クリニック)を開設した。戦後、親を失うなど養育の担い手のいない乳幼児を見守り、医療に従事しながら児童福祉を志し、昭和27年私財を投じて乳児院を開設した。やがて高齢化社会を迎える社会ニーズに応えようと練馬区で最初の特別養護老人ホーム育秀苑を開設、また少子高齢化に対応するべくして40年に渡り1700人余

の乳幼児を養育してきた乳児院を閉鎖し、跡地に特別養護老人ホーム第2育秀苑を開設した。次いで医師として理事長を務める医療法人財団秀行会でも介護老人保健施設ミレニアム桜台を開設し、高齢者医療と高齢者福祉が協力して保健、医療、福祉にわたる総合的なサービスの提供を可能とした。数々の功績が讃えられ昭和48年に藍綬褒章、昭和56年に勲五等宝冠章を受章している。教育者であった祖父から、人間は世の為人の為に尽くしてこそ生きる価値があると学んだ秀世は、練馬区を第二の故郷として「この地域のために尽くして生きていきたい」と常々語り、その言葉、精神が現在も我々職員に引き継がれている。



経歴

- 明治42年(1909) 1月 大分県にて誕生
昭和7年(1932) 3月 東京女子医学専門学校卒業(現東京女子医科大学)
昭和18年(1943) 4月 東京女子医科大学評議員
昭和27年(1952) 4月 学校法人東京女子医科大学監事及び評議員
昭和33年(1958) 1月 医学博士学位授与
昭和38年(1963) 4月 練馬区立開進第三小学校校医
昭和39年(1964) 5月 社團法人日本女医会監事
昭和42年(1967) 5月 社團法人日本女医会理事
昭和43年(1968) 4月 社團法人至誠会理事
昭和44年(1969) 4月 社會福祉法人全国社会福祉協議会乳児福祉協議委員
昭和46年(1971) 4月 東京都社会福祉協議会乳児部会副会長
昭和48年(1973) 11月 藍綬褒章受章
昭和56年(1981) 11月 勲五等宝冠章受章

社会福祉法人育秀会70年のあゆみ

history

昭和14年(1939)
第二次世界大戦勃発

昭和20年(1945)
第二次世界大戦終結

昭和22年(1947)
板橋区から分離・独立して練馬区が誕生
人口は104,607人
区役所は開進第三小学校講堂に開設



昭和26年(1951)
社会福祉事業法施行

昭和27年(1952)
練馬区社会福祉協議会設立

昭和10年
(1935)
12月

板橋区南町
(現練馬区桜台)に
阿部医院開設
(産婦人科・小児科)



阿部医院開設 創設者・阿部秀世医師(前列右端)

昭和26年
(1951)
12月

医療法人財団秀行会設立



秀行会設立 阿部秀世医師(前列右から2番目)

昭和27年
(1952)
12月

社会福祉法人育秀会設立
育秀会乳児院を設立後認可
(現育秀苑地／練馬区桜台2丁目)



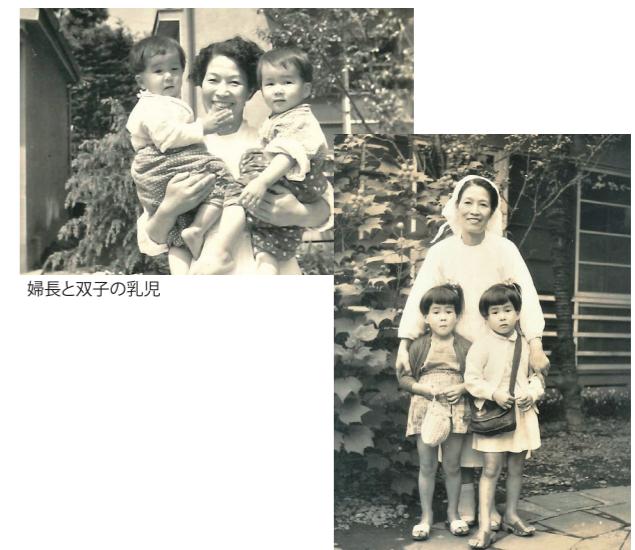
ベランダにて(昭和31年頃)



乳児院の職員(昭和36年頃)



年長児の子どもたち(昭和31年頃)



婦長と双子の乳児

乳児院を卒院する日

昭和34年(1959)
国民年金法施行

昭和35年(1960)
精神薄弱者福祉法施行

昭和36年(1961)
国民皆保険、国民皆年金体制の確立

昭和39年(1964)
母子福祉法施行
東海道新幹線、名神高速道路、首都高速道路開通
東京オリンピック1964開催
新潟地震

昭和40年(1965)
厚生年金法改正
母子保健法施行

昭和45年(1970)
日本万国博覧会(大阪万博)開催



昭和46年(1971)
児童手当法施行
東京川越道路(関越自動車道練馬~川越間)開通

昭和47年(1972)
札幌冬季オリンピック
沖縄返還
日中国交回復

昭和48年(1973)
老人医療費無料化(福祉元年)

昭和58年(1983)
老人保健法施行
(高齢者医療費無料制度の廃止)

昭和62年(1987)
社会福祉士及び介護福祉士法施行
国鉄民営化

昭和42年
(1967)
4月

耐震耐火鉄筋コンクリートで乳児院を新築
(現第2育秀苑地／練馬区羽沢2丁目)



昭和42年
(1967)
6月

秩父宮妃殿下をお迎えし、新築落成式挙行



昭和42年
(1967)
10月

常陸宮妃殿下ご視察のため御来院



昭和62年
(1987)
11月

特別養護老人ホーム育秀苑開設



平成元年(1989)
消費税施行(3%)
ゴールドプラン策定

平成2年(1990)
福祉八法改正
バブル崩壊
花の万博開催

平成6年(1994)
エンゼルプラン策定

平成7年(1995)
阪神淡路大震災
ボランティア元年

平成9年(1997)
児童福祉法改正法成立

平成12年(2000)
介護保険法施行
成年後見制度施行
社会福祉事業法等改正(社会福祉事業法から社会福祉法に改正)
有珠山・三宅島噴火

平成16年(2004)
新潟中越地震

平成18年(2006)
障害者自立支援法成立

平成19年(2007)
郵政民営化スタート

平成21年(2009)
衆議院総選挙、民主党大勝政権交代

平成23年(2011)
東日本大震災

平成27年(2015)
北陸新幹線開業

平成28年(2016)
熊本地震
マイナンバー制度運用開始

令和元年(2019)
新天皇制

令和2年(2020)
新型コロナウイルスで緊急事態宣言

令和3年(2021)
東京オリンピック2020開催

平成8年
(1996)
3月

児童福祉施設乳児院の廃止



平成10年
(1998)
4月

特別養護老人ホーム第2育秀苑開設



社会福祉法人育秀会 創立50周年記念
創設者胸像除幕式



平成25年
(2013)
6月

特別養護老人ホーム第3育秀苑開設



社会福祉法人育秀会70周年



乳児院の子供達の来苑(育秀苑)



お花見(育秀苑 平成9年4月)



第2育秀苑
エントランスホールに建立
(制作 澤本光國)



創設者・阿部秀世前理事長(左から3番目)



納涼祭(第2育秀苑 平成18年7月)



東京福社会のご協力による供養会(8月)



敬老祝賀会(9月)



近隣の保育園との交流



東京消防庁による
火災予防業務協力者表彰式



自衛消防訓練審査会出場



職員親睦忘年会(12月)



職員親睦旅行

これまでの70年間 そして未来へ

CROSS TALK

創立70周年を迎えた育秀会。
これまでの感謝と未来への想いを語る。



左から
大川施設長(第3育秀苑)
中村理事長
加藤施設長(第2育秀苑)
穂苅施設長(育秀苑)

中村：現在、育秀会は高齢者福祉を中心に事業を行っておりますが、人口が減ってきた日本において、どこまで高齢者福祉を充実させていけるかは大きな課題です。それは、高齢者だけではなく、日本の人口全体を底上げしていかなければ解決しない問題です。しかも、新型コロナウイルス感染症の影響で出生数も減り、さらに人口減少が進んでいますので、育秀会創設時の基本に戻り、高齢者だけでなく乳児や子供とそのお母さん達まで全世代を対象に福祉を届けたいと思っています。育秀会では数年前から、練馬区の他の社会福祉法人と協力しながら、「ねりま☆わつくわく広場(※)」をつくりました。それを今後更に広げて、子供の貧困の対策、孤立した家族や障害のある方にも住みやすい地域になるよう社会貢献していきたいと考えています。

加藤：第2育秀苑は乳児院の跡地に建っており、創設時の想いに触れる機会も多く、その想いを大切にしながら、新しいことに取り組んでいきたいと思っています。最近は新型コロナウイルス感染症の影響で、地域の人と

の繋がりがほとんどなくなってしまいました。これからまた地域との繋がりを持つことで、地域が抱える課題を知ることが必要だと思います。

大川：新型コロナウイルス感染症により、今まで感じたことのない閉塞感みたいなものを感じましたが、感染者が出た中でも職員が強く使命感をもって取り組んでくれたこと、また結束力が今まで以上に増したこと等、職員の力強さを感じました。これからは介護人材の不足も大きな問題になってきますので、人材の確保、育成にも力を入れて取り組んでいきたいと思っています。

穂苅：高齢者は今後増え続け、2054年がピークになるとと言われています。その状況の中で、子供の貧困、単身世帯の増加等、問題としては理解していくのも、自分達に何ができるかイメージがまだ湧いてこない

というのが正直なところです。特養としてというよりは、社会福祉法人として何ができるかをもう少し具体化していきたいと思っています。



中村：社会福祉法人は、戦後の荒廃期に生活困難者や戦争孤児を救済するために始まり、その後、各福祉法が制定される中で、事業者自身が私財を投じ、先駆的に地域の社会福祉への貢献をしてきた背景があります。育秀会も前理事長の阿部秀世が私財を投じ、秀行会、育秀会を創設し、様々な方のご協力があつたからこそ、練馬区でこれだけ長く事業を続けてこられたと思います。

加藤：私が介護職の頃、利用者様から昔の育秀会のことを教えていただく機会がたくさんありました。利用者様から阿部医院で出産したと聞くことは度々あって、法人の職員のなかには阿部医院で産まれたという方もいますね。とても素敵なお縁ですよね。

大川：「阿部医院で子供を産んだのよ」という利用者様はたくさんいますよね。ここ最近は、阿部医院で産まれたという利用者様もいて、そういう声を聞くととても嬉しいです。



穂苅：私も居宅介護支援事業所でケアマネジャーをしていた頃、「阿部さんのところね」と言われることが多く、秀行会と育秀会は阿部さんのところの病院と施設だということで、地域に根付いていると感じました。

中村：介護保険制度導入前に、練馬区から江古田や桜台近隣の一人暮らしの方の調査を依頼され、実際訪問してみたら、そのまま緊急入院しなくてはならない方が

いたり、この地域でこんなに一人暮らしで困っている方がいるということが分かりました。



大川：現在の地域包括支援センターの職員がしていることですよね。

中村：この状況を町

会にご報告したくて近隣の7町会にお声掛けしたのが第1回目の地域懇談会でした。第2育秀苑の開設が平成10年で、第2育秀苑も含めて当時は区内に在宅介護支援センターが7ヶ所と少なく、まだまだ在宅介護支援センターの機能が十分に活用されてない時期でした。それから町会と地域の課題について話し合う機会を毎年持つようになります。このような形で地域と交流をして地域の課題を把握し社会貢献していくと考えています。法人に地域包括支援センターが3か所あるので交流はしやすいと思います。

穂苅：地域包括支援センターを活用し、地域の課題やニーズを見る化していかなければいけません。その中で、ご高齢でもまだ元気で、色々なことをやりたいと言つてくださる方もたくさんいらっしゃると思います。



加藤：この辺りの地域でも道路の落ち葉掃きや公園内の草むしりをされているご高齢の方々をよくお見かけしています。

大川：地域貢献をしたい、人の役に立ちたいという元気な高齢者の方はこれからどんどん増えていくと思いますし、共に活動できればいいですね。

中村：そういう方たちとどうやって一緒に活動できるか、というのも一つの課題ですね。老年医学では今の高

齢者は以前に比べ身体的に10歳以上若いと言われています。高齢者だからできないではなく、様々な視点で何が出来るか、どのようにご協力いただけるかということを考えいく事も大切だと思います。

加藤：今年度発行した「育秀会だより」の記事にもあります、法人の職員構成を見ても60代以上の方がたくさん活躍していることを改めて認識しましたよね。



穂苅：たくさんやりたいことがある中で、理事長がまずやりたいと考えているのは何ですか？

中村：最初の話に戻りますが、子供に関わることをずっとやりたいと思っています。子供の貧困は、現代では見えづらくなっているような気がします。

加藤：確かに見えづらいですね。子供の居場所づくりをテーマに「ねりま☆わくわく広場」を育秀苑で開催した時、集まる子供達の家庭環境までは分からなかったけど、継続していくと課題も見えてくるかもしれませんね。定期的に来られる場所があつて居場所があるということは子供達にとってもいいことだと思います。

中村：学校の授業だけでは理解できない子供達の中には、学習の機会がなかなか得られない子もいて、私達が学習支援をしていかないかとずっと考えていました。他にも子供食堂とか食の提供を含めて居場所を提供することも可能性の一つとしてあるのかもしれませんね。

穂苅：高齢の方々が子供達の学習支援の場に見守りとして居ていただくというのもいいですよね。私の子供を見て

ていると感じますが、学校が終わった後に意外と勉強する場所がないみたいです。家で勉強できる環境がない子供達の為に、場所を開放するだけでも、居場所づくりになるのかもしれないと思います。

加藤：核家族化が進んで、おじいちゃんやおばあちゃんと暮らしている子供も減っていると思いますし、普段教われないようなことを学べて、楽しい居場所になるかもしれませんよね。子供が育秀会に来るようになると、未来の福祉人材に繋がる可能性もあるし、利用者様や私達職員のことが少しでも記憶に残ってくれれば、介護に興味を持つてもらうきっかけになるかもしれませんよね。

大川：日々の業務に追われて将来を考えることが疎かになりましたが、こうやって定期的に考える機会を持たなければなりませんね。

中村：改めてこれから育秀会について考えると、社会福祉法人としてもっと色々なことにチャレンジしていきたいですね。

※ねりま☆わくわく広場…地域における公益活動の一環として、練馬地区では社会福祉法人13法人が集まり、子どもたちが集まる場、知つて・学んで・体験できる場として小学生やその家族を対象とした子供の居場所づくりを支援しています。



地域での活動

地域における公益活動の一環として、練馬地域の社会福祉法人13法人が集まり、子どもたちが集まる場、知つて・学んで・体験できる場として、小学生やその家族を対象とした「ねりま☆わくわく広場」を企画し、育秀苑は開催場所として育秀苑の地域交流スペースを提供しています。



地域との協働

地元の町会と防災協定(災害活動相互応援協定)を結び、定期的に防災訓練を行っています。また、育秀苑・第2育秀苑・第3育秀苑のそれぞれが「福祉避難所」として指定を受け、災害発生時には「避難拠点(区立小中学校)」と連携して、被災者の受け入れを行います。



地域福祉の担い手づくり

地域福祉の多様な担い手づくりの一環として、介護福祉士や社会福祉士、看護師などの実習生を受け入れています。また近隣の中学生の職場体験学習の受け入れ、地域や学校で行う研修への講師派遣、在宅で家族の介護をする方へ向けた介護者教室などを開催しています。



施設の地域開放

地域の住民を対象として、施設の地域交流スペースをボランティアグループの活動場所として提供しています。在宅介護支援センター(現:地域包括支援センター)の事業として行われた活動が事業終了後も自主的なグループとして継続する活動もあり、地域での活動拠点となるよう支援しています。



地域との交流

花のある街づくりを目指すことにより地域の方の心のやすらぎや生きがいづくりを支援したり、近隣保育園との季節ごとの触れ合いを通じて、世代間の交流を図っています。人と人が助け合い、生き生きと暮らせる地域づくりのために、様々なボランティア活動や地域の催しなど、多様な方々との交流を進めています。



特別養護老人ホーム育秀苑

昭和62年(1987)11月

特別養護老人ホーム育秀苑開設
短期入所生活介護事業開始

平成12年(2000)4月

居宅介護支援事業開始

平成25年(2013)4月

在宅介護支援センター
(現地域包括支援センター)業務委託

平成30年(2018)4月

生活支援員センター業務開始

令和2年(2020)4月

地域包括支援センター 桜台地域集会所内移転
常設型街かどケアカフェ事業開始



桜台介護センター(居宅介護支援事業所)



桜台地域集会所

- ①お祭り行事食 ②育秀苑祭り ③お祝い
- ④外気浴(屋上) ⑤新年の参拝 ⑥母の日
- ⑦端午の節句 ⑧⑨敬老会 ⑩屋上花壇
- ⑪クリスマスコンサート ⑫クリスマスディナー





特別養護老人ホーム第2育秀苑

平成10年(1998)4月

特別養護老人ホーム第2育秀苑開設
短期入所生活介護事業開始

平成10年(1998)6月

在宅介護支援センター(現地域包括支援センター)業務受託
ホームヘルプサービス事業開始

平成30年(2018)4月

生活支援員センター業務開始

第2育秀苑



- ①外出(お花見)
- ②敬老祝賀会
- ③納涼祭
- ④エントランス
- ⑤新元号発表
- ⑥ドッグセラピー
- ⑦元旦
- ⑧乳児院からあるリス
- ⑨日常(3階フロア)
- ⑩書道教室
- ⑪作品展
- ⑫外気浴(屋上)



第3育秀苑

特別養護老人ホーム第3育秀苑

平成25年(2013)4月

在宅介護支援センター(現地域包括支援センター)業務委託

平成25年(2013)6月

特別養護老人ホーム第3育秀苑開設
短期入所生活介護事業開始
訪問介護事業開始
居宅介護支援事業開始
デイサービスセンター「レインボー」事業開始

- ①年忘れのど自慢 ②クリスマス準備 ③流しそうめん ④リハビリ体操 ⑤お寿司食べ放題
- ⑥いちご狩り(埼玉県毛呂山町) ⑦納涼祭 ⑧オセロ対戦 ⑨散歩(つつじ山児童遊園)
- ⑩アニマルセラピー



years

編集後記

社会福祉法人育秀会は令和4年12月に創立70周年の節目の年を迎え、ここに記念誌を発行できることを大変嬉しい思います。

昭和から平成、令和と歩んできた法人の歴史を大切にしたい、記録として残して次世代に繋いでいきたいと思い、創立当時から現在に至るまでの出来事、これからの法人への想い等を盛り込んで企画し、古くは昭和10年の貴重な写真からこれまでの様々な冊子や資料を参考にして編集いたしました。時代のニーズと共に変化してきた育秀会の姿と70年目を迎えた今をこの記念誌から感じていただけたら幸いです。

最後に当記念誌の編集にあたり、お忙しいなか原稿をお寄せいただきました皆様、編集にご協力いただきました職員の皆様に心より感謝申し上げます。

令和4年12月吉日

編集委員:川俣雄基 黒岩利香

社会福祉法人育秀会70周年記念事業 記念誌
令和4年(2022)12月 発行

阿部クリニック

心のこもった最良の医療

地域のみなさまが安心して医療を受けられるクリニックを目指し、親切で丁寧な診療を心がけています。外来診療のほか、検査など総合的に対応し、地域医療に貢献してまいります。

診療案内

受付時間 午前8:45~12:15
午後14:15~17:45

土曜日は第1 土曜日午前のみ(予約制)

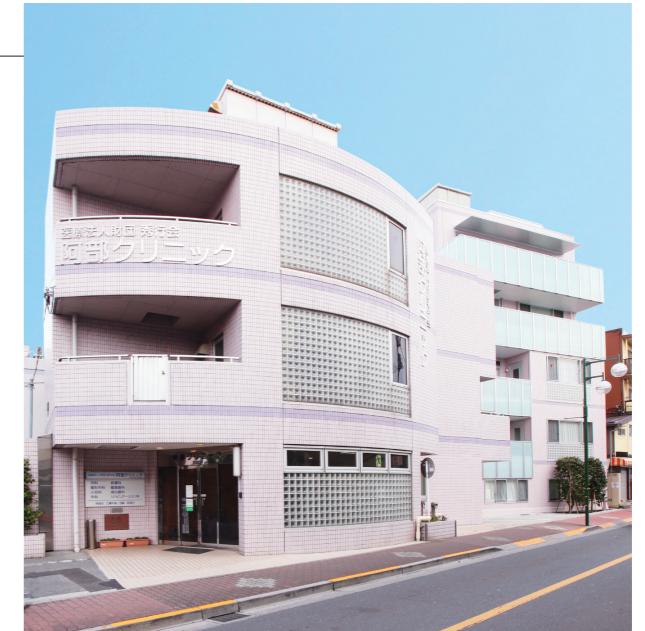
日曜祝祭日は休診

診療科目

内科、整形外科、消化器科、老年総合外来、鍼・灸・マッサージ

〒176-0002 東京都練馬区桜台2-1-7

TEL03-3992-1103 FAX03-3992-1008



介護老人保健施設 ミレニアム桜台

ご自宅で生活することを目標として、入所やショートステイ、通所リハビリテーションで、利用者様の状態や目標に合わせたケアサービスを行います。職員一同心を込めてお手伝いさせていただきます。

サービス内容

入所サービス(定員92名ショートステイ含む)
ショートステイ
通所リハビリテーション(デイケア)

〒176-0002 東京都練馬区桜台2-1-13

TEL03-5946-5508 FAX03-5946-3785

